

吟道週報

NO. 8
48.3.5

頤心会

頤心会の歩み（四十年）

昭和四十年の五明けに入会者は急増して来た。二月以降、千葉信一、千葉信子、小峰ハツ、猪廻し、鈴木政江、中村あい、狩野よし子（最近退会）、前司吉長と入会、秋には平本富士枝、小山輝子、石木みさは、新井桂代、鈴木しん入会、会員数は三十二三名に達して来た。

六月二十一日の川崎労働会館の第十四回県大会には竹村梅泉、加藤圭泉、三井玲山出吟、秋の第十五回大会は県本部長居住の逗子の体育館を使用、はじめて県大会を逗子の地に開催することとなった。地本頤心会と吟友の、その準備と復旧の努力は並大ていではなかつた。全館に重いケンパ又マットを敷きつめ、運び椅子四〇〇人分を並べた。出吟は大楠公の三井玲山外十六名の大会吟と独吟の中村幸泉、詩舞は月の幻想の長物と小林紫舟先生と千葉信子、藤田紀

恵子三名で舞い根岸基山、加藤圭泉、鈴木萃泉の吟、中村あいの唱歌で相当の反響があつた。この時会場が広いので（二、五〇〇名入）大会奨励のため合吟多し、誦吟会の六十名の大会吟は今も目に残る。秋の逗子文化祭には各芸能部と共に頤心会より詩舞二題を出した。『桜花詩』吟加藤圭泉、舞小池正枝と「ひえつきの歌」吟鈴木萃泉、中村あい舞小林紫舟先生と千葉信子であつた。この時興国流の金港吟詠会がはじめて出吟し逗子市吟詠連盟の結成の気運が高まつた。

県本部関係

◎オ一回青少年吟道大会は逗子市図書館で二月二十五日開催、二百名の参加者あり盛会であつた。特に県の吟道大会と違つた分団気は、若さが溢れ幼稚園児を交えた吟士、剣士の相武学園の五十有余の参加は新しい吟道の転期を迎えた様な感じがした。今後毎年実施されることとなり、青少年諸子の奮起を望むや切な

るものがある。

◎才二回横須賀地区吟道大会は五月十三日(日)横須賀市依笠十字路の衣笠行政センターで開催される。碩心会の割当は十六名で次の通り各支部に割当てました。三月二十日までに出席者と吟題をお知らせ下さい。
逡子支部四名、堀内六、大船四、一色二、下山留士児二、嵯山二、長柄一、沼間一、山根一、建設一、本部二、計二十六名。

碩心会本部関係

◎十月六、七日(土、日)の諏訪吟行旅行会参加予定者次の通りでバス二台ご予約しました。尚十五名位の追加可能です。
逡子八、堀内五、大船五、一色四、嵯山五、下山口二。

◎新会員次の通り

堀内、逡子武雄、菜山町堀内一八三九、TEL 0468-65222
野田公男 " " 一八二六 " " 0468-65222
大船 伊藤まよ子中塚区飯島一五二五、TEL 0468-65222
逡子 石渡とく子逡子市逡子一九三三、TEL 0468-65222

逡子銀座吟詠支部会員

支部長、橋本卯平、逡子市逡子五二二五三、TEL 0468-2468
会 計、上田新太郎、 " " 一七七一、 " " 二四〇〇
会 員、橋 昭二、 " " 五二四一、 " " 三〇〇〇
大久保達男、 " " 五二九一、 " " 三六八六

堀田秀男 " " 五二四一、 " " 二八七五

杉井唯衛 " " 五二四一、 " " 五〇一八

福島謙之助 " " 五二四一、 " " 三三八六

古田島利之助 " " 六二四一、 " " 三八一六

一柳七郎 " " 五二九一、 " " 三九七〇

一柳晶子 " " " " " "

山本太郎 " " 一七七一、 " " 五四六六

平子健治 " " 五二四一、 " " 二九〇九

坂井田金治 " " 二二六一、 " " 三三五六

沼間再入会、梅井茂人、逡子市沼間一九一五、七五三六
◎退会員、建設支部、勝呂 勇

◎住所変更

88 村川香泉、鎌倉市磯原三〇〇二、野村証券明生寮、TEL 0468-2468

56 津相秀雄(香泉) 同右

以南部越来、葉山町一色七七四二二

◎堀内支部発足十周年大会、四月八日(日)、菜山町福祉会館